

## 2014年3月期第2四半期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 片岡 史朗  
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治  
 : (TEL) (06) 7635-1636

## (1) 当第2四半期の連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(2013年4月1日～2013年9月30日)の当社経営環境は、円高修正による輸出ビジネスの復調や採算改善、中国市場開拓の進展等、海外を中心に持ち直しました。その一方、国内市場は景気回復期待の高まりはあったものの、需要の低迷や競争激化に見舞われた分野も存在し、力強さに欠ける展開となりました。

こうした中、2012年度からの3ヵ年の中期経営計画『GS-III』の主要戦略の一つである「海外事業の拡大のための基盤整備」の一環として、

- ① ベトナム現地法人の開設(8月3日)
- ② ベトナムでの縫製拠点の拡充決定

等のプロジェクトを進めると共に、拡大を目指す上海現地法人の体制整備を実施しました。また、諸コスト上昇傾向にある中、全社でコスト削減を進めました。

当第2四半期の連結経営成績につきましては、売上高は530億9百万円(前年同期比12億3千4百万円、2.3%の減収)、営業利益は17億1千9百万円(同1億円、6.2%の増益)、経常利益は17億5千1百万円(同1億1千2百万円、6.9%の増益)、当期純利益は10億9千5百万円(同8千万円、7.9%の増益)となりました。

## 【連結業績】

(単位:百万円)

	当第2四半期累計期間 (2013年4月～2013年9月)		前第2四半期累計期間 (2012年4月～2012年9月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	53,009	-	54,244	-	▲1,234	▲2.3%
粗利益	4,192	7.9%	4,176	7.7%	+15	+0.4%
営業利益	1,719	3.2%	1,619	3.0%	+100	+6.2%
経常利益	1,751	3.3%	1,638	3.0%	+112	+6.9%
当期純利益	1,095	2.1%	1,015	1.9%	+79	+7.9%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易(上海)有限公司の1社であり、同社の連結累計期間は2013年1月1日から同6月30日となっています。

## 【単体業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (2013年4月～2013年9月)		前第2四半期累計期間 (2012年4月～2012年9月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	52,508	-	53,915	-	▲1,406	▲2.6%
粗利益	4,020	7.7%	4,093	7.6%	▲73	▲1.8%
営業利益	1,639	3.1%	1,585	2.9%	+53	+3.4%
経常利益	1,667	3.2%	1,607	3.0%	+60	+3.8%
当期純利益	1,033	2.0%	992	1.8%	+41	+4.1%

以下&lt; &gt;の中の名称は(株)クラレの商標です。

## (2) 営業の概況

## 【繊維関連】(減収、増益)

売上高は209億円。前年同期比2億円(0.9%)の減収。

## (衣料分野)

- スポーツ分野は、アパレル向け高機能素材の販売や縫製品のOEM販売が、素材から製品までの一貫体制の取り組み効果もあり順調に拡大しました。その一方、学校体育衣料向け生地や製品の備蓄は前年比遅れて推移しましたことから、減収となりました。
- ユニフォーム分野は、白衣用途は機能素材の販売が拡大しましたが、ワーキング向けを中心に流通在庫調整の影響を受け、減収となりました。
- ブラックフォーマル分野は、濃染加工や遮熱など新規開発の機能素材の採用が順調に進展し、販売が拡大しました。
- 輸出は、機能原糸<ミントパール>の販売がタオル用途で拡大し、また中東向け販売は円安状況の中採算が改善し、堅調に推移しました。
- 上海現地法人では、現地日系企業向け縫製品ビジネスが、テキスタイルとの連動による一貫体制の評価も加わり、販売が拡大しました。

以上の結果、衣料分野は売上は前年同期並み、利益は縫製品の為替影響があり減益となりました。

## (資材分野)

- スポーツ靴用資材、メディカル関連資材は、好調な需要に加え、顧客との素材開発の取組みが貢献し販売が拡大しました。
- 産業資材は、需要の回復により自動車用ゴム資材向けビニロンが好調に推移し、また水溶性PVA系繊維<クラロン K-II>も中国で販売を伸ばしました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、ランドセル用途が在庫調整の影響を受け低調な販売となりましたが、新規分野の開発、海外企業との連携による製品ビジネスの強化を進めました。
- 不織布関連は、競合が厳しい中国内販売が苦戦しました。

以上の結果、資材分野は、減収、増益となりました。

### 【樹脂・化学品・化成品関連】（減収、増益）

売上高は321億円。前年同期比10億円(3.1%)の減収。

- 溶剤等化学品関連は順調に拡大し、環境関連資材含むその他の分野は前年同期並みに留まりました。
- 尚、親会社との一部事業の再編があり減収となりました。

### （3）2014年3月期の連結業績予想（2013年4月1日～2014年3月31日）

当社の経営環境は、欧米経済の底入れや、国内需要回復への期待の高まり等があります一方、中国をはじめとする新興国経済の成長鈍化や、原燃料価格・諸コストの上昇、米国での不安定な財政事情等々に見舞われており、今後の影響が懸念されます。

当社としましては、引き続き「GS-Ⅲ」アクションプランの着実な実行を通じ、アジアを中心に積極的に市場や用途の開拓を進めてまいります。通期業績は年初公表値に対しまして、下表の通り微減収、利益横ばいを予想しております。

（億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
年初公表 (対前期比)	1,130 (+3.9%)	35 (+4.2%)	35 (+1.4%)	22 (+3.3%)
今回公表 (対前期比)	1,100 (+1.1%)	35 (+4.2%)	35 (+1.4%)	22 (+3.3%)

<注記> 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上